

令和元年度 大阪府立鳳高等学校 学校運営協議会（第3回） 記録

日時 令和2年2月13日（木）14時～16時

出席者 蒲生委員、神代委員、甲斐委員、福喜多委員、神田委員、鈴木委員
校長、事務長、教頭、首席

1. スピーチコンテスト参観

2. 参観の感想

- ・ 発表者と見学者の学年は？
→基本的にいずれも本校2年生。11月ころから各自の原稿作成が始まり、英語科教員のアドバイスも受け、1月中にクラス内で発表会。各クラス2名が代表となり本日を迎えている
1年生も来年度に備えて、見学や暗唱の発表に取り組んでいる。
- ・ とてもよい取り組み。生徒たちの熱心なようすが伺えた。オーストラリア国際交流研修との関係性は？
→他教科の授業中の様子とはまた違った一面が見られる。単位制の改編と同じ時期に始まったが、すっかり定着した。英語科の教員にはかなりの負担があるが、大切にしている行事。実際に今回の発表者の中にも研修参加者が含まれている。研修に参加することで、英語への関心は確実に高まっている
- ・ 100周年の式典と抱き合わせるなどのアプローチがあってもよいのでは？
→大きなホールでの発表。歌や劇などの形もあってもよいか。

3. 学校教育自己診断報告

別冊を参照していただきながら、今年度の自己診断の分析結果について報告

- ・ 保護者の方々からの記述回答についての返答はどのようにしているか？
→記名があった部分については校長・教頭から個別に回答する約束。他については、HP上での報告で若干触れたり、その後の取り組みの成果でそれに代えている。
- ・ 単位制が安定期を越えているという報告についてはどう受け止めているか
→他府県での進学型単位制高校も縮小の傾向が見られるが、単位制そのものを売りにする時代は過去のものになりつつある。本学を受験する中学生も、単位制の仕組みに魅力を感じている生徒は9%程度で、どちらかと言うとクラブもできて進学体制も整っている学校だからという生徒が多いようである。新教育課程への取り組みをはじめとして、新たな魅力の創出も課題のひとつである。

4. 令和元年度学校評価について報告

学校教育自己診断の結果も取り入れながら、評価表を作成
概ね了承

5. 令和2年度学校経営計画（案）報告

- ・ 学校力の向上 ⇔ 運営の効率化 は同じ分類でよいのか
→ 1. ～ 3. が生徒への教育内容に関わる項目で、それ以外の学校運営に関わる内容がすべてこの4. に含まれることとなっている。働き方改革もここにあてはまる。
- ・ 重点目標の文言変更
- ・ ICT化への取り組みについて意見交換